

沖繩産弟切草新品

小 泉 源 一

昭和七年五月八日沖繩島の多和田眞淳氏は美里村松本にて弟切草の一種(No. 122)を採れり、本品は葉の黒點が周圍ぼかして美しい點で *Hypericum Nakaianum* LEVL (= *H. Taquetii* KELLER) や *Hypericum Dielsii* LEVL に類し、萼片が線狀で黒紫色を呈し先端鈍頭なる點でも亦前者に似品なるが本品は遙に壯大にして普通の弟切草の如く、且つ雌蕊下に腺體を有せざるを以て區別すべく、後者とは葉は卵圓下面灰白ならざる事萼片鋭形ならざる事にて直に區別し得べし。

***Hypericum* (Homotaenium) *lutchuense* KOIDZ. nov. sp.**

Herbae perennantes 60-65 cm altae, robustae, inferne breviter nodosae, 3-5 mm latae, glaberrimae. Caulis erectus simplex, e nodo ramis brevibus sterilibus vel longis fertilibus duobus instructus; internodiis quam folia brevioribus inferioribus valde abbreviatis copiose articulatis, lineis infrapetolaribus paullum elevatulis. Folia dicussatim opposita oblonga, ovato-oblonga vel oblongo-ovata, apice emarginata basi pleraque subcordato-amplexicaulis raro obtusissima, integerrima, 2,5-4 cm longa, 8-14 mm lata, utrinque 2-4 costata, facie punctis orbicularibus centro atratis margine pulchre atro-coeruleis picta, margine nigro-punctata, tenue chartacea vel crasse membranacea, costis venisque infra elevatulis supra impressiusculis. Inflorescentia ad apicem caulis copiose subpaniculatim florata, bracteis bracteolisque foliaceis oblongis vel lineari-oblongis oppositis, pedicellis filiformibus clavatis, floribus lutescentibus. Calyx sepala lineari-oblonga vel oblonga obtusa atro-purpurascencia striata, inter linam margineque nigro-punctata, raro margine grandulis nigris stipitatis vestita. Petala obovato-oblonga tenuissima nervosa, inter venam nigrostriata, margine atropunctata vel glandulosa. Stamina tridelpha. Carpella 4 ovaria inter se coalita stylis liberis rectis rubris.

Nom. Jap. *Okinawa-otogiri*

Hab. Japonia: Lutchuu, insula Utchina (lg. S. TAWADA, 1932 Maj. 8.)

日 本 植 物 覺 書 1

(*Sertum Japonicum* 1, auct. J. OHWI)

大 井 次 三 郎

1) **コクワガタ**臺灣に産す——臺灣の檜林で有名な太平山のすぐ下の方にあつた

が臺灣ではまだ記録がない様である。コクワガタ、ハヒクワガタ及びクワガタサウ三品の區別はすこぶる難かしいもので各別なものとして區別せられるべきものか如何か。又 *Veronica cana* Wall. とはたして別種のものであるかどうかと云ふ事に關しては今一度詳しく調べる必要がありはしまいかと思はれる。

2) **ニヨホウチドリ**——初め日光の女貌山で採集されたために *Orchis Joo-Iokiana* Makino の學名と共にその名がついて居るが現在では磐城、下野、信濃、の諸國の深山に生育する事が知られて居る。花の紅紫色で美しい蘭である。學名はその後シベリア産の *Orchis pauciflora* Fisch. にあてられて居るが此の組合せはそれ以前に Tenore がやつて居るので用ふる事が出来ぬ。従つてニヨホウチドリの學名はやはり *Orchis Joo-Iokiana* Makino が正しい事に成る。此の種はシベリアにもあるのでその地續きの朝鮮にも生育して居る。所が朝鮮のものは内地のものに比して花がほんの少し小振りなものと唇瓣の中央裂片の先端が可なりの變異はあるが多少截頭に近くなるものも多く且そこから出て居る突起が全體として稍著しいので内地産のものの変種とすべきものと考へる。

***Orchis Joo-Iokiana* MAKINO** in Bot. Mag. Tokyo 16 (1902) 57 — *Orchis pauciflora* Auct. Japon. saltem pro pte, nec TENORE non FISCH. — Hab. Hondo media

var. ***coreana* OHWI** var. nov. — *Orchis pauciflora* (non TENORE) KOMAR. et Auct. Japon. saltem pro pte. — A typo floribus paullulo minoribus, labellorum lobo medio apice saepe subtruncato et mucronato diversa. — Hab. Korea (Engando in Kampoku, leg. J. OHWI — Typus).

3) **ヒロハヌマガヤ**本州にあり——學名は *Diarrhena mandshurica* Maxim. である。私は以前コマロフ滿洲植物誌和譯に従つてオホタツノヒゲの和名と共に東京植物學雜誌に出したが此れは本田博士の云はれる如く且つてタキキビに付けられた事があるからヒロハヌマガヤの方が正當と考へられる。本州では信濃國にある。南信の大鹿村、地獄谷と云ふ所で古瀬義氏が採集せられたのを杉本順一氏から頂いた。No. は R. 296 である。外觀はタツノヒゲに酷似したものであるが全體が少し大形で花穎も大きく第二花穎の龍骨は上部粗澁であるので區別が出来る。又タツノツメは大體全體が平滑であるが此の植物では節間、葉鞘及葉面に毛が生える事が多い。しかし節間が平滑に成つたり、葉面が毛茸が無くなつたり、葉鞘が無毛に成つたりして時には全く無毛に成つてしまふ。そのときには植物全體が大きいと云ふ特徴は餘り一個體だけでは信用が出来ぬから第二花穎のザラツキを見る外はしかたがない。露西亞の學者が大陸にもタツノツメがあると云つて居るのは此の形を指したものであろう。Molinia

Fauriei Hack. はヒロハヌマガヤの花の咲く前の時期の標本に名付けられたものであつて花も瘦せて居るが果實が熟すればタツノツメと殆んど同様に大きな穎果が出来てしまひ區別が出来なく成つて来る。

4) ヤブデマリ——臺灣にもある。もつとも支那中部にもあるのであるから當然とも云へやう。場所は臺北州の太平山でキヤンラワとシキクン社との間で採集した。内地のものと同様に殆んど變らないが葉は比較的小形で毛茸が稍多い。

5) クリンサウ——之れも臺灣にある。場所は臺北州の南湖大山でまだ中腹の森林中に少しばかり生育して居た。之れも初めての記録であらう。

6) ヒメミコシガヤ——*Carex laevis* Nakai と云ふ朝鮮の植物で中井博士の説の通り。ヤマミコシガヤや内地のミノボロスゲに似て非な。はつきりした植物である。露西亞の學者が云つて居る *C. albata* Boott. と云ふ植物は恐らく之れであらう。私は初め九州等にあるツクシミノボロスゲかと考へたが分布の點で左様ではなくて此の種と考へた方がよい様である。所が之の植物らしいものを内地のしかも攝津國の山田村で採集した標本がある。山原種逸氏の採集で田代善太郎氏から頂いたものである。しかし標本は餘り完全なものではないので萬一の疑ひはあるがその他にも採集者不明の備中國川上郡吉川の標本があるから十中八九間違ひのない所であらう。

7) マツマヘスゲ——本邦の北部ではどこにも分布して居る植物であるが昨夏北千島の旅行では遂に同島で見出す事が出来なかつた。オホツク沿岸に極く普通の植物であり乍ら千島では得撫島以北に産せぬ事は面白い事實であると思はれる(もつと詳しく調べたら北千島でも出るのかも知れないが少くとも普通の植物ではない)エゾノカウボウムギも之れと同じ様な分布をして居ると考へられる。尙此のマツマヘスゲに匍枝を引くものがあつて *Carex fusco-fibrosa* Ohwi と付けたが之れは北川氏の云はれる通り *Carex tenuistachya* Nakai と同物である。北海道に在住せられて生品を豊富に觀察せられた北海道帝國大學の秋山茂雄氏は札幌附近では匍枝の出るものも出ぬものもあつて別種ではないと云つて居られる。しかし北鮮附近の自生地等を見るとどうしても區別した方がよい様に思はれるので變種にして區別を残す事にしたい。變種にすると匍枝の出る方は

Carex longerostrata C. A. Mey. var. *pallida* (KITAGAWA sub *C. tenuistachya* NAKAI) OHWI.

と云ふ學名に成る。

Orthomniopsis japonica BROTH. 九洲に産す

外 山 禮 三